

特集

シーズン到来！富士登山 夏の富士山を守る環境活動も本格始動

今年も登山シーズンがやってきました。一年中で一番富士山に人が集まるこの時期にも、数々の環境保全活動が行われています。また、この時期だからこそ行われる活動もあります。今回の特集はそんな「夏の富士山」を守る活動にスポットをあて、その一例を紹介します。

富士山憲章キャンペーン

- 美しい富士山を未来の子どもたちに -

7月1日～8月31日

「富士山憲章」の周知、定着を図り、富士山環境保全運動の全国的展開を推進するため、静岡県と山梨県合同のキャンペーンが展開されます。その主な内容は、富士山のトイレでの水解性ティッシュペーパーの使用や、ごみの持ち帰りを呼びかける配布活動。またトイレマナーの向上を呼びかけるポスターの掲示。また8月20日には静岡県側で、13日には山梨県側で、富士山の一斉清掃も実施されます。



富士山トイレの現状とトイレ研究会の活動

平成10年、静岡県は学識者、利用者、地元関係者等による「富士山トイレ研究会」を設置しました。会では富士山にふさわしいトイレ施設、し尿処理方法等を検討し、毎年様々な実験を試みています。富士山トイレの現状とあわせて紹介します。

富士山トイレの現状

夏期の集中利用に加え、富士山特有の厳しい気象条件などから放流、浸透による処理方法が依然として存在し、山肌にし尿とともに放流されてごびりついたティッシュペーパーや悪臭など、好ましくない現象が生じています。

富士山のトイレを取り巻く条件

- 電気：商業電力はなく、各山小屋は、自家発電によって必要最小限の電力を確保
- 水：上下水道はなく、表流水もないため、雨水等を溜めて必要最小限の生活水を確保
- 輸送手段：一般車道はなく、車両通行は不可。物資の輸送はブルドーザーのみ。気象条件からヘリコプターの利用は困難
- 利用状況：夏期の2ヶ月間に約30万人が集中
- 便槽へのごみの投げ入れ等、利用者マナーに問題
- その他：気象条件(強風、雪崩、崩落)や地形・地質条件(急斜面地形、スコリア等の脆弱な地層)等により施設の大型化は困難

トイレ研究会の実証実験

これまでの主な取組

平成10年:スギチップ式トイレ(し尿を微生物により水と二酸化炭素に分解し消滅)の実用化について実証実験

平成11年:し尿運搬の実証実験

今年の実験

企業の協力を得、現地ですし尿を分解消滅させる自己完結型の仮設トイレを設置し、実用化に向けた実証実験を実施。

場所：小山町須走口五合目駐車場付近

実証実験期間：7月中旬～8月中旬

設置台数：3基

処理方法：オガクズ、スギチップ、パルジェット水によるし尿分解

利用者には管理維持費として一回の使用にあたり100～200円程度の協力金のお願いを呼びかける。

須走口にチップ(協力金)制トイレ誕生

～秋
小山町

シーズンを前に、須走口五合目に登山者観光客用の新しいトイレが設置されました。男性用、女性用に加え、車椅子でも利用できる「親子トイレ」も設置。洗浄水は雨水とし尿を濾過しながら再利用する「循環方式」で、照明などの電気は自家発電となっています。利用期間は秋まで、チップ(協力金)制が導入されます。

富士宮チップ制トイレ



新設の須走口チップ(協力金)制トイレ内部

表富士宮口で チップ制トイレをPR

7月1日～10月9日
富士宮市

昨年の経験を元に今年は、チップ制導入の趣旨や、チップ制トイレの存在をアピールする表示板が、富士宮口五合目公衆トイレに登場します。入り口にはチップ制を明記したものが、中には昨年の「協力金」実績を明記したものが設置されるということです。ちなみに昨年の実績は67万5292円。一人当たり、10円25銭。一人100円の目安とは大きく異なる結果でした。



▲富士宮トイレチップ箱



富士山ボランティア清掃

7月1日～9月30日

富士山周辺の高校・地元企業など

富士宮、富士、裾野、御殿場、小山、神奈川などの高校、また地元企業、団体などが毎夏ボランティアで富士山の清掃活動を行っています。昨年の参加数は約540人で、ごみ集積量は836kg。ここ数年はペットボトルやタバコの吸い殻などが増えているとのこと。



富士山一斉清掃



富士山一斉清掃

8月20日

富士山をいつまでも美しくする会

毎年恒例となっているもので、今年の実施は8月20日。御殿場口、富士宮口、須走口などで実施されます。今年にはボランティア参加してくれる団体等を募り、約3000人の参加を予定しているとのこと。また、夏山シーズン中は、清掃員を雇用して行う清掃活動も実施されます。

環境庁初の 「ふれあい自然塾」 田貫湖にオープン

7月8日、環境庁が進めている「ふれあい自然塾」の第1号が、田貫湖畔にオープンします。これは自然の中で滞在しながら自然を体験、学習しようという施設で、自然体験ハウス、野外作業場、コテージなどの設備の他、自然体験のフィールドとなる冒険の森などが整備されています。

また個人でも団体でも参加できる、自然体験のプログラムとして、洞窟原生林探検、ネイチャーゲーム、東海道自然歩道ハイク、クライミングウォール・ロープワーク教室、糸つむぎ教室などが用意されています。

ネットワーク会員連携事業 「富士山子どもサミット」 (仮称)8月開講

この夏、「ふじさんネットワーク」の会員連携事業「富士山子どもサミット(仮称)」が実施されます。これは、子どもたちに自然や富士山を学んでもらうことを目的とした環境教育で、8月20日～22日の2泊3日、「静岡県立富士山麓山の村」を会場に開講するものです。

天体観測や、富士山一斉清掃などの体験学習の他、富士山の自然環境、動植物、地形、地質、地下水等を学ぶ講義、自然保護団体の活動見学などを盛り込んだプログラムを計画中です。会員のみならずのご協力をよろしくお願いたします。